

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年11月10日
【四半期会計期間】	第58期第2四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	ウェーブロックホールディングス株式会社
【英訳名】	WAVELOCK HOLDINGS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役兼執行役員社長 木根 純
【本店の所在の場所】	東京都中央区明石町8番1号
【電話番号】	03(6830)6000(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員 管理本部長 石原 智慧
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区明石町8番1号
【電話番号】	03(6830)6000(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員 管理本部長 石原 智慧
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第57期 第2四半期 連結累計期間	第58期 第2四半期 連結累計期間	第57期
会計期間	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2020年4月1日 至2020年9月30日	自2019年4月1日 至2020年3月31日
売上高 (千円)	14,903,297	14,981,918	29,251,432
経常利益 (千円)	985,098	925,245	1,598,646
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	694,874	622,166	1,108,962
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	668,505	616,717	1,075,079
純資産額 (千円)	11,813,833	12,675,415	12,078,039
総資産額 (千円)	29,476,229	29,009,473	29,144,940
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	72.88	64.04	116.30
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	72.25	63.61	115.27
自己資本比率 (%)	40.0	43.6	41.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,735,325	1,440,631	2,864,276
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	256,910	460,079	465,176
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	442,815	436,303	2,114,227
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	3,086,212	2,917,495	2,367,815

回次	第57期 第2四半期 連結会計期間	第58期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2019年7月1日 至2019年9月30日	自2020年7月1日 至2020年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	22.78	17.71

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 1株当たり四半期(当期)純利益および潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益の算定上、株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式を期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(マテリアルソリューション事業)

ダイオ化成株式会社および日本ウェーブロック株式会社は、2020年4月1日付で株式会社イノベックスを存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(アドバンステクノロジー事業)

株式会社シャインテクノは、2020年4月1日付で株式会社ウェーブロック・アドバンス・テクノロジーを存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

（1）財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴い、国内においても4月に緊急事態宣言が発出され、飲食店等の一部事業者への休業要請や個人の外出自粛等により、個人消費は大幅に落ち込み、景気は急速に悪化しました。その後、緊急事態宣言は解除され、経済活動が徐々に再開されたことによって景気回復の兆しは見られるものの、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、新型コロナウイルスの社内外での感染拡大防止を最優先とする一方、単に目の前で起こっている変化への対応以上に、中長期的視点から、新型コロナウイルス感染拡大により起こりつつある社会のパラダイムシフトとともに今後明らかになるであろう『残れるビジネス』、『残れないビジネス』、『新たに生まれるビジネス』を的確に見極め、会社自体を早急にシフトするための各種取り組みに注力してまいりました。

この結果、当社グループ全体の売上高は149億81百万円（前年同期比0.5%増）、営業利益は9億60百万円（前年同期比4.4%減）、経常利益は9億25百万円（前年同期比6.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、6億22百万円（前年同期比10.5%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各セグメントの経営成績は以下の通りであります。

なお、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含めて記載しております。

（インテリア事業）

インテリア事業については、新型コロナウイルス感染拡大による建設工事中断等の影響を受け、壁紙市場全体が落ち込む中、比較的利益率の高い中級品の販売が大きく落ち込んだにも関わらず、機能性量産壁紙の市場浸透等により量産品の販売が健闘したことと、利益率改善のための各種取り組みが功を奏し、売上高は44億12百万円（前年同期比5.9%減）、セグメント利益は3億55百万円（前年同期比6.8%減）といずれも前年同期比で減少したものの、セグメント利益率は前年同期並みの結果を確保することができました（前第2四半期連結累計期間：8.1%、当第2四半期連結累計期間：8.1%）。

（マテリアルソリューション事業）

マテリアルソリューション事業については、リビングソリューション分野において、ホームセンター向け園芸用品、張替用防虫網およびその関連用品等が、新型コロナウイルス感染拡大を背景にした巣籠り需要の増加や換気意識の高まり等により、継続的に売上を大きく伸ばしました。ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション分野においては、第1四半期に大きく売り上げを伸ばした飛沫感染防止用透明シート等の新型コロナウイルス感染防止関連製品として、新たに防災性能を有する製品を投入するなどし、更なる需要の取り込みを図りました。一方で、その他の製品においては、建設工事に代表される各種経済活動が中断、もしくは、大幅縮小した結果、販売は低迷しました。パッケージングソリューション分野においても、持ち帰り用の食品容器は堅調に推移したものの、ミルクポーション等の飲食店向け用途が低調に推移しました。アグリソリューション分野においては、新型コロナウイルス感染拡大による先行き不透明感から国内農業における投資意欲の後退等もあり、需要が落ち込みました。この結果、事業全体の売上高は85億70百万円（前年同期比1.5%減）、セグメント利益は8億38百万円（前年同期比12.8%増）となりました。

(アドバンステクノロジー事業)

アドバンステクノロジー事業については、ディスプレイ用拡散板の販売が大幅に増加しました。一方、海外での販売、特に自動車関連の売上が大きい金属調加飾フィルム分野において、中国市場では、経済活動の再開により、需要が回復したものの、国内を含むその他の地域においては、新型コロナウイルス感染拡大による大幅な落ち込みからは未だ回復の途上にあり、国内外で販売が大きく落ち込みました。また、PMMA/PC二層シート分野においても、自動車用ナビゲーションシステム用途において新規案件獲得等の成果が順調にあったものの、低調に推移したスマートフォン用途の落ち込みをカバーするに至りませんでした。この結果、事業全体の売上高は22億10百万円(前年同期比21.5%増)、セグメント利益は22百万円(前年同期比82.4%減)となりました。

(2) 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は161億91百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億28百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が5億49百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が4億92百万円、商品及び製品が3億77百万円減少したことによるものであります。固定資産は128億17百万円となり、前連結会計年度末に比べ93百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が77百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、290億9百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億35百万円減少いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は100億78百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億47百万円増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が1億2百万円、1年内返済予定の長期借入金が1億66百万円、未払法人税等が1億89百万円減少したものの、短期借入金が10億円増加したことによるものであります。固定負債は62億55百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億80百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が12億1百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、163億34百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億32百万円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は126億75百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億97百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により4億78百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は43.6%(前連結会計年度末は41.3%)となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、前連結会計年度末と比較して5億49百万円増加し29億17百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は14億40百万円(前年同期は17億35百万円の収入)となりました。これは、仕入債務の減少額1億59百万円、法人税等の支払額4億94百万円等の資金の減少要因があったものの、税金等調整前四半期純利益9億23百万円、減価償却費4億99百万円、売上債権の減少額4億93百万円、たな卸資産の減少額2億51百万円等の資金の増加要因があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は4億60百万円(前年同期は2億56百万円の支出)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出4億19百万円等の資金の減少要因があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は4億36百万円(前年同期は4億42百万円の支出)となりました。これは、短期借入れによる収入72億50百万円等の資金の増加要因があったものの、短期借入金の返済による支出62億50百万円、長期借入金の返済による支出13億67百万円等の資金の減少要因があったことによるものであります。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積りおよび当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1億80百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	44,440,000
計	44,440,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,120,538	11,120,538	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	11,120,538	11,120,538	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	11,120,538	-	2,185,040	-	1,092,520

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社サンゲツ	愛知県名古屋市西区幅下1丁目4番1号	2,470,000	25.11
株式会社日本カストディ銀行(信託 口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	488,900	5.00
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	342,400	3.48
S M B C 日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内3丁目3番1号	269,400	2.74
木根 潤 純	東京都世田谷区	246,907	2.51
福田 晃	東京都練馬区	175,000	1.78
モルガン・スタンレーM U F G証券 株式会社	千代田区大手町1丁目9番7号	163,298	1.66
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱U F J 銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A2BB UNITED KINGDOM	149,600	1.52
株式会社日本カストディ銀行(信託 口5)	東京都中央区晴海1丁目8-12	141,200	1.44
楽天証券株式会社	東京都港区南青山2丁目6番21号	140,100	1.42
計	-	4,586,805	46.63

(注) 1. 上記のほか、自己株式が1,284,514株あります。

. 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式の割合を計算するにあたって発行済株式の総数から控除した自己株式には、株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式54,975株を含めておりません。

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,284,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,832,900	98,329	-
単元未満株式	普通株式 3,138	-	-
発行済株式総数	11,120,538	-	-
総株主の議決権	-	98,329	-

(注)1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式14株、株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式75株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式54,900株(議決権数549個)が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ウェーブロックホールディングス株式会社	東京都中央区明石町8番1号	1,284,500	-	1,284,500	11.55
計	-	1,284,500	-	1,284,500	11.55

(注) 株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式54,900株(0.49%)は上記自己株式に含まれておりません。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）および第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,367,815	2,917,495
受取手形及び売掛金	7,406,215	6,913,455
商品及び製品	4,674,448	4,297,108
仕掛品	388,622	435,081
原材料及び貯蔵品	1,282,332	1,351,614
その他	316,862	295,825
貸倒引当金	16,155	18,986
流動資産合計	16,420,143	16,191,593
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,543,912	3,467,986
機械装置及び運搬具（純額）	1,684,474	1,615,580
土地	5,353,118	5,353,118
建設仮勘定	142,853	410,810
その他（純額）	339,745	293,788
有形固定資産合計	11,064,103	11,141,284
無形固定資産	318,649	313,288
投資その他の資産		
投資有価証券	114,838	118,012
その他	1,249,998	1,268,026
貸倒引当金	22,792	22,732
投資その他の資産合計	1,342,044	1,363,306
固定資産合計	12,724,797	12,817,879
資産合計	29,144,940	29,009,473

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,335,664	4,233,147
短期借入金	350,000	1,350,000
1年内償還予定の社債	60,000	60,000
1年内返済予定の長期借入金	2,670,208	2,503,708
未払法人税等	387,893	198,477
賞与引当金	489,612	474,172
その他	1,337,066	1,258,761
流動負債合計	9,630,444	10,078,266
固定負債		
社債	60,000	30,000
長期借入金	4,851,820	3,650,466
株式給付引当金	14,882	17,116
退職給付に係る負債	2,232,092	2,279,113
資産除去債務	66,766	66,774
その他	210,894	212,321
固定負債合計	7,436,456	6,255,791
負債合計	17,066,901	16,334,057
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,185,040	2,185,040
資本剰余金	775,122	744,247
利益剰余金	10,035,954	10,514,180
自己株式	1,055,305	896,828
株主資本合計	11,940,810	12,546,639
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,142	21,725
為替換算調整勘定	88,752	75,408
退職給付に係る調整累計額	4,848	2,389
その他の包括利益累計額合計	109,743	99,523
新株予約権	5,361	2,358
非支配株主持分	22,123	26,893
純資産合計	12,078,039	12,675,415
負債純資産合計	29,144,940	29,009,473

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	14,903,297	14,981,918
売上原価	11,198,544	11,258,949
売上総利益	3,704,752	3,722,968
販売費及び一般管理費	2,700,617	2,762,733
営業利益	1,004,135	960,235
営業外収益		
受取利息	673	535
受取配当金	2,227	277
負ののれん償却額	18,160	-
持分法による投資利益	277	749
不動産賃貸料	7,587	7,587
その他	31,166	27,888
営業外収益合計	60,092	37,038
営業外費用		
支払利息	37,107	31,359
為替差損	19,744	19,750
その他	22,277	20,918
営業外費用合計	79,128	72,028
経常利益	985,098	925,245
特別利益		
固定資産売却益	5,079	-
投資有価証券売却益	28,655	750
新株予約権戻入益	-	1,755
特別利益合計	33,735	2,505
特別損失		
固定資産除却損	2,182	4,023
特別損失合計	2,182	4,023
税金等調整前四半期純利益	1,016,651	923,727
法人税、住民税及び事業税	372,679	305,457
法人税等調整額	54,788	9,372
法人税等合計	317,890	296,084
四半期純利益	698,760	627,642
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,885	5,475
親会社株主に帰属する四半期純利益	694,874	622,166

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	698,760	627,642
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32,388	5,582
為替換算調整勘定	12,000	12,726
退職給付に係る調整額	15,494	2,458
持分法適用会社に対する持分相当額	1,360	1,322
その他の包括利益合計	30,255	10,925
四半期包括利益	668,505	616,717
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	665,300	611,947
非支配株主に係る四半期包括利益	3,204	4,769

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,016,651	923,727
減価償却費	517,407	499,665
負ののれん償却額	18,160	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,930	2,764
賞与引当金の増減額(は減少)	47,488	15,440
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	44,517	46,965
退職給付に係る調整累計額の増減額(は減少)	22,429	3,516
受取利息及び受取配当金	2,901	812
支払利息	37,107	31,359
為替差損益(は益)	1,479	6,365
持分法による投資損益(は益)	277	749
固定資産売却損益(は益)	5,079	-
固定資産除却損	2,182	4,023
投資有価証券売却損益(は益)	28,655	750
売上債権の増減額(は増加)	620,739	493,069
たな卸資産の増減額(は増加)	346,173	251,910
仕入債務の増減額(は減少)	628,841	159,368
その他	11,308	113,968
小計	1,978,678	1,965,245
利息及び配当金の受取額	2,993	812
利息の支払額	40,138	30,576
法人税等の支払額	206,207	494,849
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,735,325	1,440,631
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	355,767	419,918
有形固定資産の売却による収入	5,080	-
無形固定資産の取得による支出	2,007	42,018
投資有価証券の取得による支出	1,495	49
投資有価証券の売却による収入	97,181	5,575
貸付けによる支出	-	300
貸付金の回収による収入	301	601
その他	203	3,970
投資活動によるキャッシュ・フロー	256,910	460,079
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	18,750,000	7,250,000
短期借入金の返済による支出	17,800,000	6,250,000
長期借入れによる収入	500,000	-
長期借入金の返済による支出	1,599,192	1,367,854
社債の償還による支出	140,000	30,000
ストックオプションの行使による収入	1,040	124,800
配当金の支払額	134,102	143,914
その他	20,561	19,335
財務活動によるキャッシュ・フロー	442,815	436,303
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,305	5,431
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,041,905	549,679
現金及び現金同等物の期首残高	2,044,307	2,367,815
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,086,212	2,917,495

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

ダイオ化成株式会社および日本ウェーブロック株式会社は、2020年4月1日付で株式会社イノボックスを存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

また、株式会社シャインテクノは、2020年4月1日付で株式会社ウェーブロック・アドバンスト・テクノロジーを存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

(株式給付信託について)

当社は、取締役、執行役員および一部子会社の一部取締役(社外取締役を除きます。以下「取締役等」といいます。)の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役等が株価上昇によるメリットのみならず、株価下落リスクまでも株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として取締役等に対して株式報酬制度「株式給付信託(BBT(=Board Benefit Trust))」を導入しております。

(1)取引の概要

本制度は、当社が定めた役員株式給付規程に基づき取締役等にポイントを付与し、退任時に受益者要件を満たした取締役等に対して、付与されたポイント数に応じた当社株式を給付します。ただし、取締役等が役員株式給付規程に定める要件を満たす場合には、ポイントの一定割合について、当社株式の給付に代えて、当社株式の時価相当の金銭を給付します。取締役等に対し給付する株式については、予め当社が信託設定した金銭により信託銀行が将来給付分も含め取得し、信託財産として分割管理するものといたします。

(2)信託に残存する自己株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。

また、当該自己株式の帳簿価額および株式数は、前連結会計年度58,508千円、56,475株、当第2四半期連結会計期間56,954千円、54,975株であります。

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱いの適用)

当社および国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行およびグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(新型コロナウイルス感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染拡大に伴う会計上の見積りについて)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
受取手形割引高	15,528千円	1,592千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
給料及び手当	587,906千円	642,029千円
賞与引当金繰入額	144,533	127,662
株式給付引当金繰入額	4,791	3,522
退職給付費用	46,425	35,862
貸倒引当金繰入額	-	2,764

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
現金及び預金勘定	3,086,212千円	2,917,495千円
現金及び現金同等物	3,086,212千円	2,917,495千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月13日 取締役会	普通株式	134,274	14	2019年3月31日	2019年6月21日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には株式給付信託(BBT)の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金808千円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年10月31日 取締役会	普通株式	143,895	15	2019年9月30日	2019年12月5日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には株式給付信託(BBT)の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金847千円が含まれております。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月14日 取締役会	普通株式	143,940	15	2020年3月31日	2020年6月22日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には株式給付信託(BBT)の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金847千円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年10月30日 取締役会	普通株式	147,540	15	2020年9月30日	2020年12月7日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には株式給付信託(BBT)の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金824千円が含まれております。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	インテリア	マテリアル ソリューション	アドバンスト テクノロジー			
売上高						
外部顧客への売上高	4,452,014	8,636,278	1,815,003	14,903,297	-	14,903,297
セグメント間の内部 売上高又は振替高	235,295	61,046	4,370	300,712	300,712	-
計	4,687,310	8,697,325	1,819,374	15,204,009	300,712	14,903,297
セグメント利益	381,438	742,965	126,933	1,251,337	247,202	1,004,135

(注)1. セグメント利益については、セグメント間取引消去338千円、事業セグメントに配分されていない当社の損益 247,540千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	インテリア	マテリアル ソリューション	アドバンスト テクノロジー			
売上高						
外部顧客への売上高	4,260,485	8,523,018	2,198,414	14,981,918	-	14,981,918
セグメント間の内部 売上高又は振替高	151,977	47,334	12,211	211,523	211,523	-
計	4,412,462	8,570,352	2,210,625	15,193,441	211,523	14,981,918
セグメント利益	355,332	838,176	22,336	1,215,846	255,611	960,235

(注)1. セグメント利益については、セグメント間取引消去216千円、事業セグメントに配分されていない当社の損益 255,827千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益および算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	72円88銭	64円04銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	694,874	622,166
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	694,874	622,166
普通株式の期中平均株式数(株)	9,534,271	9,715,838
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	72円25銭	63円61銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(株)	83,948	64,568
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があった ものの概要	-	-

(注) 1株当たり四半期純利益および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上、株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式を期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第2四半期連結累計期間57,121株、当第2四半期連結累計期間54,975株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2020年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....147,540千円

(ロ) 1株当たりの金額.....15円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2020年12月7日

(注) 2020年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月9日

ウェーブロックホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大中 康宏 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 片山 行央 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているウェーブロックホールディングス株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ウェーブロックホールディングス株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。